

市民・学生の皆さんも
自由に聴講できます

科学のつどい in 山大 (11)

観測天文学が解き明かす宇宙 — 電波天文学の現在と未来

講演者 新沼浩太郎さん (山口大学准教授)

日時 2016年1月20日 (水) 16:30~18:00

会場 山口大学理学部 12 番教室 (1 号館 1 階)

現代の天文学は観測装置の大型化が進み、国際協力が当たり前のグローバルな学問の一つとなっています。その最たる例が天体の発する微弱な電波を受信・解析する電波天文学です。この電波天文学によって人類は究極の視力を手に入れ、例えば理論上の産物でしかなかったブラックホールさえもうすぐ直接「観る」ことができるかもしれません。

一方で、携帯電話や電子レンジなど、今や我々の生活に欠かすことのできないものも強い電波を發します。このように我々の身の回りを飛び交う生活電波は天体の電波に比べ桁違いに強いのです。

純粋な自然科学である天文学であっても「学問」と「生活」の共存を考える必要が出てきました。本講演で電波天文学の置かれている状況や我々が抱える課題について知って頂き、自然科学のあり方について意見を頂ければと思います。

講師紹介 早稲田大学理工学部 2003 年卒、同大学院理工学研究科で博士(理学)の学位を取得し、国立天文台の研究者を経て、2011 年から山口大学の教員として藤沢健太教授とともに電波天体の研究を行っており、The AP-RASC'13 Young Scientist Award を受賞。

主催 日本科学者会議 (JSA) 山口支部平川分会

共催 山口大学教職員組合

連絡先・お問い合わせ 山口大学教職員組合書記局 (Tel:083-933-5034; e-mail:fuy-union@ma4.seikyuu.ne.jp)



山口大学が運用する市内仁保にある山口 32m 電波望遠鏡。日本で4番目に大きい電波望遠鏡です。